

発言通告書要旨 (1枚目/全2枚)

氏名 中谷 喜英

発言番号	発言事項及び発言要旨	備考
1	<p>道路維持費について</p> <p>維持補修費について、総額だけを見ると2,000万円程度増額になっているが、下水道工事に伴うAS復旧費等も含まれているので、実質は横ばいとなっている。</p> <p>側溝整備の進捗率については、令和6年で全体延長589キロメートルのうち整備済は327キロメートル、未整備261キロメートルと約56%の進捗率となっている。また、現状の予算では各町1ヶ所当たりの整備延長が20メートル程度となっており、これでは各区間の完了までに何年かかるか分からない。もっと進捗率を高める必要があるのではないかと考える。</p> <p>区道整備予算と執行状況については、毎年約20件の申請があり、うち17件の実施状況となっている。実施件数だけを見ると高い進捗率に見えるが、実際は予算が少ないために申請内容の2分の1程度しか実施されていないのが現状である。</p> <p>この道路維持費については、いまの維持補修費や側溝整備の進捗率、区道整備予算と執行状況を踏まえると、大幅に予算を増額して地元の要望に応えるべきではないかと考えるが、所見を問う。</p>	
2	<p>(1)</p> <p>水道事業について</p> <p>原水浄水施設耐震化事業について</p> <p>災害時においても水の安定供給を行うため、新たな配水池を計画しているところであるが、現状の配水池におけるろ過システムは2系統のうち1系統だけが高度なるろ過システムを運用し、もう1系統は従来通りのシステムとなっている。どちらも水質基準には適合しているが、せっきくの高度なシステムと従来システムとを混合させて配水するのはもったいない施設だと考える。</p> <p>これを機に全て高度なるろ過システムに切り替えるべきだと考えるが所見を問う。</p>	
	<p>(2)</p> <p>導送水施設防災対策事業について</p> <p>災害時等において九谷ダム水源の水質異常が発生した場合に備えて、山代配水池から県営水道水を山中浄水場へ送水ポンプにてバックアップ送水を可能とし、災害時の断水リスクを回避し、水道水の安定供給を図ることが事業の目的となっている。今回そのための調査費として550万円の予算計上がされているが、どのようなシステムの構築を目指しているのか。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目/全2枚)

氏 名 中谷 喜英

発言番号		発言事項及び発言要旨	備 考
	(3)	給水人口のカバーについて ポンプ能力や配水池の容量を考慮したとき、山中及び山代配水区のどれだけの給水人口をカバーできるのか。	
3	(1)	森林環境譲与税について 令和7年度当初予算における用途について 令和7年度当初予算における森林環境譲与税の用途について示せ。	
	(2)	今後の用途について 今後、恒久的に交付される森林環境譲与税であるが、将来にわたってどのような用途を計画しているのか。	